# 福岡県の主な農産物の生産状況

令和４年 11 月 15 日現在
（専技情報より抜粋）

◇大豆◇
収穫は、「ちくしＢ５号」が 10 月 29 日頃から、「フクユタカ」は 11 月３日頃から開始され、最盛期は平年よりやや早い 11 月９～20 日頃の見込みです。
莢数は確保されていますが、台風 11、14 号による倒伏等の影響により子実の肥大が抑制され、収量は、昨年より多いものの、概ね平年並みとなる見込みです。
最下着莢位置に留意しつつ、土をかき込まないよう刈取り高さを調整して収穫しましょう。倒伏しているほ場は、リフターキットを装着し、刈取りロス軽減に努めましょう。

◇麦類◇
現在、排水対策として周囲構や弾丸暗きょ等の施工、土づくりとして土壌の酸度矯正等を実施中です。
播種は 11 月 10 日頃から始まり、最盛期は 11 月中旬～11 月下旬になる見込みです。
大豆後作における麦類の播種は 12 月上旬が中心になる見込みです。
排水対策、土づくりを実施し、ほ場の土壌水分や天候を見極めて、適期播種を行いましょう。
二条大麦の早播きは、収量、品質が低下しやすいため行わないようにしましょう。

◇冬春ナス◇
定植は、８月から９月下旬までに終了し、出荷は９月２日から開始しています。年々定植時期が早まっているものの、出荷量は 10 月の夜温が低く推移したことにより伸びは緩やかです。
好天により、生育は順調です。果実品質も良く、安定した出荷が続く見込みです。
病害虫は、乾燥傾向で推移したため、コナジラミ類やヨトウ類、うどんこ病等が見られます。
「PC 筑陽」は着果負担により樹勢が低下しやすいため、温度管理に注意し、適正な着果数を維持しましょう。

害虫対策と併せて、茎えそ細菌病や灰色かび病などの対策を徹底しましょう。

◇カキ◇
「秋王」は、10 月中旬から出荷開始です。開花期の天候が良く梅雨期の日照時間が多かったことから、結実は良好で、出荷量は前年を上回る見込みです。
「富有」は、11 月上旬から出荷開始です。着果量は平年より多いですが、秋季の乾燥により果実肥大は鈍化傾向です。カメムシ被害果が多いです。
適期収穫に努めるとともに、軟熟果の混入防止のため選果を徹底しましょう。
炭疽病の罹病枝・被害果の除去、園外への持ち出しを徹底しましょう。

◇温州ミカン◇
「早味かん」は、10 月下旬に出荷が終了し、出荷量は 836t（前年比 93）、単価は 405 円/kg（前年比 106）、高単価で推移しました。
「北原早生」は、10 月中旬から出荷を開始し、11 月上旬で出荷終了しています。着果が少なく大玉傾向で果実糖度は前年並みからやや低くなりました。
早生は、11 月上旬から出荷開始です。着果が少なく、出荷量は前年より少なくなる見込みです。
収穫前には、貯蔵病害の対策、腐敗果や病害虫被害果の除去等の樹上選果を徹底しましょう。
収穫時は、ハサミや枝による傷がつかないよう、果実の取扱いを丁寧に行いましょう。
マルチ栽培園は、収穫終了後速やかにマルチを除去し、雨水を入れるともに、適期に秋肥を実施し樹勢回復に努めましょう。

◇トルコギキョウ◇
秋出荷作型（10～12 月）が出荷中です。９～10 月は日照時間に恵まれ、生育は順調で前進傾向です。出荷量は、水害等の被害が少なく増加しています。
他県の出荷減少、ブライダル需要の回復等により販売単価は高く推移しています。
11 月以降は、最低温度 12℃を確保し、開花を促進させましょう。
斑点病、灰色かび病の対策を徹底しましょう。

◇肉用牛・豚・鶏◇
和牛去勢の枝肉価格は、全国旅行支援で外食需要の増加があったものの、末端消費が伸び悩んで前年度及び過去５年平均を下回りました。省令価格は、輸入牛肉からの代替需要が続いており、前年と同水準の価格を維持しています。

豚枝肉価格は、10 月後半は供給量増加で価格が下がっているものの、輸入豚肉の代替需要が続いており、前年比、過去５年平均比ともに大きく上回る高値を維持しています。
鶏卵価格は、業務用需要の好調が続いており、前年比 125%、過去５年平均比 129%と大きく上回りました。
寒冷期を迎え、幼畜の寒冷対策を徹底することで疾病等による生産性低下を少なくするように努めましょう。
国内の高病原性鳥インフルエンザは例年になく早くから発生しており、豚熱を含めて家畜伝染病予防のために、農場の衛生管理を徹底しましょう。